

経験させてくれて、ありがとう。

～ボランティアを通して学んだこと～

「話してくれて、ありがとう。」これは、私が在学中にお世話になったボランティア先で学んだ言葉です。相手の話に感謝することの大切さを感じる言葉です。

私の大学生活で最も大切な経験はボランティアです。初めは「人の役にたたい」という思いから、先輩の勧めで自閉症児の支援ボランティアに参加したことがきっかけでした。その後、もっと様々な活動を経験したいと考え、障害者の余暇活動支援や小中学生の学習支援、福祉事務所での音楽活動など、多くのボランティアに参加しました。

その中でも特に大きな経験として、子ど

も専用フリーダイアルでの活動があります。実際に子どもからの電話を受け、イベントの運営などもしました。時には自分自身の対応に悩み、活動をやめようかと考えたこともありました。しかし、常に課題と向き合い改善させた結果、落ち着いて子どもの声に接することができるようになりました。

現在、私は聾学校で教員をしておりますが、子どもの話を真摯に聴く姿勢に変わりはありません。ボランティアを通して、様々な方とのつながりだけでなく、子どもに寄り添い、共感するという、教師に求められる基本的な姿勢を学ぶことができました。

ボランティアには見返りがあるわけではありません。時には、割に合わないと思うこともあるかもしれませんが、学生生活のほんの一部分を他者のために使ってみると、それ以上に自分自身を磨くことができると私は考えています。



青森県立弘前聾学校 教諭

須藤 充弘

Mitsuhiro Suto

障害児教育教員養成課程 養護学校教育専攻
平成22年3月 卒業

